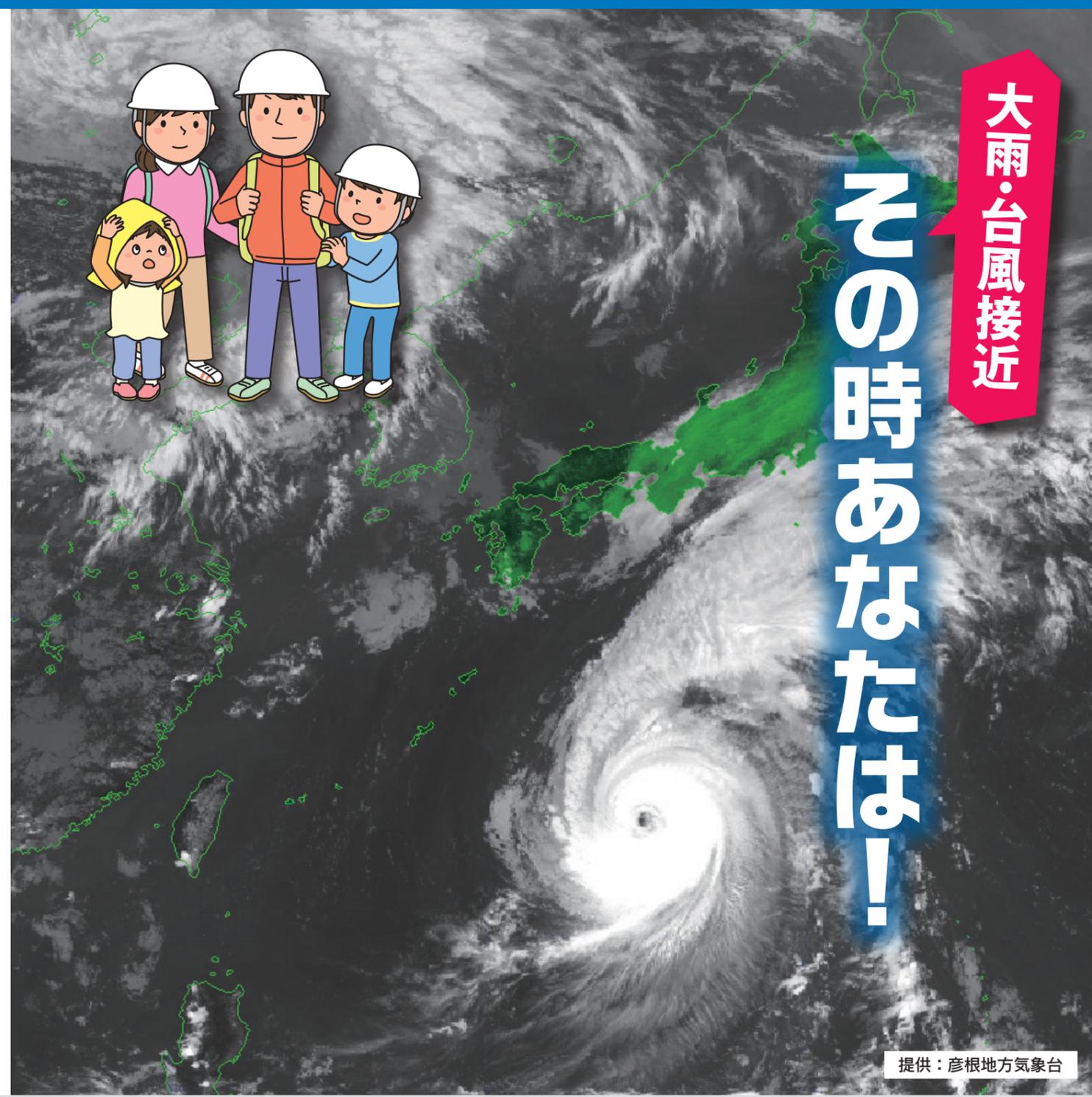


大雨・台風接近

その時あなたは！



提供：彦根地方気象台

市内でも予想できない事態が！

平成29年(2017年)10月23日、西日本をはじめ本州に大きな被害をもたらした台風21号。2日前から降り続いた長雨により市内でも甚大な被害が発生しました。

左は、市内で発生した土砂災害による被害時の写真です。丘陵地の土砂が崩れ落ち、家の床上まで流れ込んでいます。幸い早めに避難したことで人的な被害はありませんでしたが、夜間でもあり逃げ遅れによる被害が出てもおかしくありませんでした。『こんな雨くらいなら、これまで被害はなかったから大丈夫だろう』といった油断は禁物です。想定を超える状況はどこにでもあり得るのです。

▲土砂が崩れ家まで達した様子



▲タイヤ部分が完全に埋まってしまい身動きが取れない軽トラック



▲床上まで土砂が流入した玄関

早めの避難が大切だと知る 被災現場から

数年前、大雨により一部土砂が崩れる被害があり、それ以来、早めに避難することを心がけていました。この日も、台風が夜間に最も接近する予報であったため、近所とも声をかけあい、家族で近くの公民館に早めに避難していたおかげで無事でした。

途中、家の様子が気になりましたが、翌日の状況を見て戻らなくて良かったと本当に思います。

台風の接近や大雨警報などが出たときは、今でもあの時

のことを思い出しますが、こうした経験から、テレビやネットなどあらゆるものから情報を取得し、自宅ですぐに避難できるように持ち出し品をまとめておくなど準備しています。



防災豆知識 ①

【台風の図】

日本では、台風円は反時計回りで接近してきます。これにより台風円の右側では雨、風ともより強くなる傾向があります。自分の住んでいる地域が台風円の右側になった場合はより注意が必要です。

防災情報はここでチェック！

避難準備や、避難勧告などの市からの情報は次によりお知らせします。災害が発生していなくても普段から状況把握ができるように、日頃から防災に関するホームページにアクセスできるように準備しておきましょう。

- 市ホームページ
 - あいこうか緊急メール
 - あいコム放送
 - 屋内音声放送端末機
 - 屋外スピーカー
- (しらしが(しらせる滋賀情報サービス))

気象庁のホームページも併せてチェック！



あらゆるものから情報を

これからの時期、注意が必要になるのが、長雨による土砂災害や、局地的豪雨、また台風による風水害です。地球温暖化が一因と言われる各地での異常気象により、気象庁が平成25年に運用を開始した数十年に一度の大雨が予想される際に出される「大雨特別警報」や「ゲリラ豪雨(局地的大雨)」なども、最近では頻繁にテレビなどで報道されています。

いつ来るか予想ができない地震と違い、大雨や台風は、事前に風水害に対する知識を身につけることや、テレビやインターネット、ラジオなどで正確な情報を収集し、予想される事態への対策をとることで、被害は最小限に抑えることができます。

避難勧告や避難指示が出されたとき、どのような行動をとれば良いのか改めて考えてみましょう。